

秋田県羽後町西馬音内盆踊りの変容

武 田 香 奈 子

キーワード：秋田県羽後町 西馬音内盆踊り 地域行事 運営組織 踊り手

I はじめに

平（1989）は、東京都千代田区神田地区を対象に、都心部の人口減少に伴うコミュニティの変容を明らかにし、さらに町会行事である神社の祭礼において、人員の確保が困難になっていることを示唆している。また藤島（1996）は、秋田市の竿燈祭りを事例として、観光化と祭典化が運営形態と町内竿燈の機能的変化をもたらしたとしている。

そこで本研究では、秋田県羽後町西馬音内盆踊りの変容について1980年と2004年を比較し¹⁾、運営組織と踊り手を中心に考察することを目的とする。

秋田県羽後町は、県の南端、雄勝郡の西部に位置している。西馬音内地区は、羽後町の中心市街地と位置づけられる。西馬音内盆踊りは8月16日から18日までの3日間、西馬音内地区本町通りで行われる（写真1）。観光客は年々増加し、2003年には盆踊り期間中の3日間で16万人に達した²⁾。

西馬音内地区の人口は国勢調査によると、1955年



写真1 西馬音内盆踊りの様子
(2004年8月16日 筆者撮影)

盆踊り会場は、本町通りに沿って約350mにおよび、細長く延びた輪踊りの形をなしている。

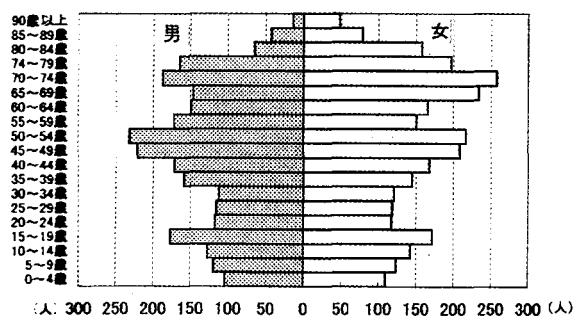
には7,178であったが、2000年には5,425に減少している。第1図によれば、20～44歳までの年齢層の割合が低いことがわかる。一方、65歳以上の老年人口は1,593であり、西馬音内地区の人口の約30%を占めている。

II 1980年の西馬音内盆踊りの概要

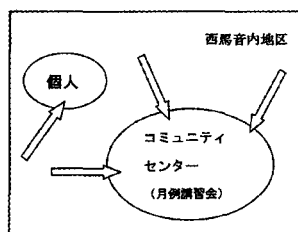
1980年における西馬音内盆踊りに関する運営組織は、1947年に設立された西馬音内盆踊り保存会（以下保存会とする）と1972年に設立された西馬音内盆踊り実行委員会（以下実行委員会とする）、西馬音内盆踊り協賛会（以下協賛会とする）の3つであった。1947年から1972年まで、盆踊りに関する業務は、すべて保存会が行ってきた。しかし、西馬音内地区全体で盆踊りを支援し、業務の分散を図るために実行委員会と協賛会が設立された。

盆踊りを練習する場は、西馬音内地区に限られていた（第2図）。保存会が、地区住民の踊りの技術の向上を図る目的で、月例講習会を企画したため、参加者は西馬音内地区の居住者が中心であった。

踊り手に関しては、西馬音内地区に居住する踊り手、西馬音内地区に帰省する踊り手という2つのパターンがみられた（第3図）。



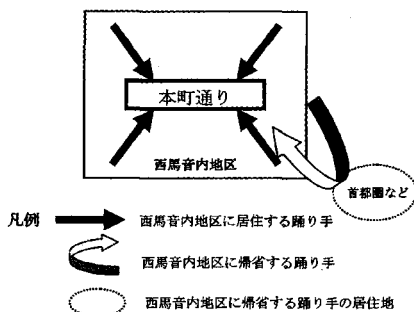
第1図 西馬音内地区における年齢階級別人口構成
(2003年12月)
(住民基本台帳より作成)



凡例 ○ 踊りを練習する場所 ※円の大きさは規模を示す。
→ 西馬音内地区から練習に参加する人

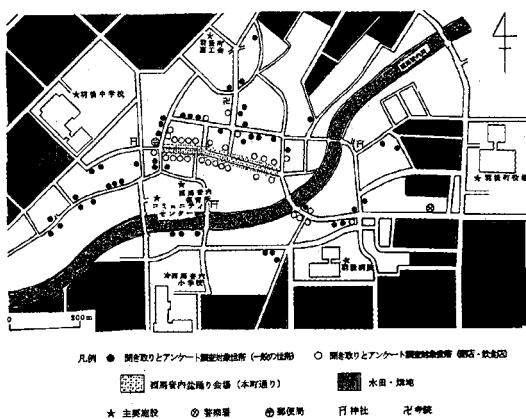
第2図 1980年における盆踊りの練習に関する地域的枠組み

(2004年の聞き取りから筆者により作成)



第3図 1980年における踊り手に関する地域的枠組み

(2004年の聞き取りから筆者により作成)



第4図 聞き取りおよびアンケート調査対象世帯の分布 (2004年)

(羽後町役場資料5,000分の1地図より作成)

以上から1980年における西馬音内盆踊りは、西馬音内地区の居住者と出身者が、盆踊りの維持・伝承、運営のすべてを担っており、純粋な地域行事としての色合いが濃かった。

Ⅲ 運営から見た西馬音内盆踊りの変容

1. 従来からの運営組織

保存会は、盆踊りの踊りと囃子を維持・伝承する

ことを目的に活動している。とくに公演活動を積極的に行い、国内はもとより2000年にはハンガリーとフランス、2001年には韓国で公演を行っている。2000年における会員は113人である。会員のほとんどは西馬音内地区の居住者である。しかし、会員の年齢は60代以上と30代以下に集中し、偏りがみられる。

実行委員会は、西馬音内盆踊りの主催者であり、公開に関する業務を取り仕切っている。実行委員会の事務局は、羽後町商工会に置かれていて、2004年11月における会員は51人である。協賛会が捻出した資金と積込収入がおもな活動資金であり、盆踊り期間中の業務は会場、渉外、会計、場外など9つの係に分かれて活動している。

協賛会は、西馬音内盆踊りの資金の捻出に関する業務を担当している。羽後町長が協賛会長を務めており、羽後町役場を中心として活動している。

2. 新たな運営組織

羽後町観光物産協会（以下観光物産協会とする）は、1985年に設立された。2003年3月における協会員数は39であり、その主体は羽後町内の事業所、団体である。協会は、国の重要無形民俗文化財の指定以降、増加した観光客に対応するために設立された。盆踊り期間中は、西馬音内地区周辺に設置される11カ所の有料駐車場の運営と警備を行っている。

西馬音内盆踊り同好会「北の盆」（以下北の盆とする）は、協会と同様に1985年に設立された。2004年10月における会員は35人である。北の盆は西馬音内盆踊りを1つの産業と捉え、おもに羽後町外や秋田県外での活動に力を入れている。会員の年齢は、保存会と異なり40代と50代が多い。

Ⅳ 踊り手からみた西馬音内盆踊りの変容

1. 従来からの踊り手

従来からの西馬音内地区に居住する踊り手と帰省する踊り手には、どのような特徴がみられるのかを把握するため、西馬音内地区（第4図）において、聞き取り調査とアンケート調査を行った。その結果が第1表である。

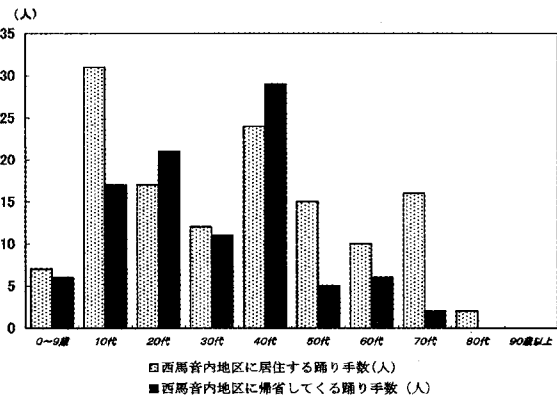
調査対象世帯において、西馬音内地区に居住する踊り手は、335人中134人である。特徴は、商店・飲食店を営む世帯において、踊り手が少ないことであ

第1表 西馬音内地区に居住する踊り手の人数と帰省する踊り手の人数とその居住地(2004年)

No.	家族人数		帰省人数		県内(市町村名)	県外(都道府県名または地名)	家族人数		帰省人数		県内(市町村名)	県外(都道府県名または地名)
	男	女	男	女			男	女	男	女		
1	3(0)	0(0)	1(1)	0(0)	湯沢市		41	6(3)	0(0)	0(0)		
2	1(1)	0(0)	8(4)	0(0)	羽後町	栃木県	42	1(0)	0(0)	1(1)		愛知県
3	2(0)	0(0)	3(2)	0(0)		東京都	43	5(1)	0(0)	0(0)		
4	2(0)	0(0)	6(3)	0(0)		宮城県、シンガポール	44	5(3)	0(0)	0(0)		
5	8(0)	0(0)	3(3)	0(0)		宮城県	45	5(2)	0(0)	1(1)	湯沢市	
6	4(0)	0(0)	3(0)	0(0)	秋田市		46	1(1)	0(0)	1(1)		シンガポール
7	7(0)	0(0)	0(0)	0(0)		岩手県	47	3(2)	0(0)	3(2)	秋田市	宮城県、新潟県、石川県
8	8(4)	0(0)	1(1)	0(0)		岩手県	48	3(1)	0(0)	2(2)	秋田市	
9	8(0)	0(0)	0(0)	0(0)		青森県	49	4(1)	0(0)	1(0)	秋田市	
10	9(0)	0(0)	1(1)	0(0)	秋田市、湯沢市		50	6(3)	0(0)	1(1)	秋田市	
11	8(0)	0(0)	8(4)	0(0)	秋田市、湯沢市		51	7(2)	0(0)	0(0)		
12	2(1)	0(0)	6(2)	0(0)	横手市、羽後町		52	5(1)	0(0)	1(0)	秋田市	
13	4(0)	0(0)	0(0)	0(0)		東京都	53	3(0)	0(0)	0(0)		
14	8(1)	0(0)	2(2)	0(0)	湯沢市	宮城県、群馬県、千葉県	54	5(2)	0(0)	0(0)		
15	3(1)	0(0)	8(0)	0(0)			55	7(7)	0(0)	8(8)	山内村	東京都
16	8(0)	0(0)	0(0)	0(0)			56	8(8)	0(0)	2(2)	秋田市	東京都
17	1(0)	0(0)	8(4)	0(0)		福島県、埼玉県	57	2(0)	0(0)	3(0)		東京都
18	3(1)	0(0)	7(1)	0(0)		青森県、宮城県、東京都、静岡県	58	7(5)	0(0)	3(2)	秋田市、羽後町	東京都
19	2(0)	0(0)	2(1)	0(0)	羽後町		59	4(2)	0(0)	2(1)	秋田市	新潟県
20	4(3)	0(0)	1(1)	0(0)		山形県	60	4(1)	0(0)	5(1)	平庭町	青森県、新潟県
21	5(3)	0(0)	3(3)	0(0)	湯沢市	東京都	61	4(1)	0(0)	0(0)		
22	4(1)	0(0)	4(3)	0(0)		茨城県、千葉県、東京都、神奈川県	62	4(2)	0(0)	2(0)		宮城県
23	2(0)	0(0)	3(2)	0(0)	秋田市、横手市		63	4(2)	0(0)	3(3)	岩手県、宮城県、新潟県	
24	8(3)	0(0)	3(0)	0(0)		栃木県、東京都、大阪府	64	7(3)	0(0)	8(0)	岩手県、平庭町	
25	4(1)	0(0)	4(2)	0(0)	秋田市、湯沢市	宮城県、東京都	65	5(4)	0(0)	3(2)		神奈川県
26	4(0)	0(0)	3(0)	0(0)		神奈川県	66	4(3)	0(0)	5(5)		東京都、神奈川県、愛知県
27	3(1)	0(0)	2(0)	0(0)		東京都、静岡県	67	4(2)	0(0)	1(0)		東京都
28	5(0)	0(0)	1(0)	0(0)		東京都	68	4(2)	0(0)	1(1)	湯沢市	
29	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)			69	6(3)	0(0)	1(1)		岩手県
30	8(5)	0(0)	5(3)	0(0)	本荘市		70	4(2)	0(0)	0(0)		
31	4(1)	0(0)	1(0)	0(0)	秋田市		71	4(2)	0(0)	2(2)		宮城県
32	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)			72	5(1)	0(0)	0(0)		
33	4(2)	0(0)	2(1)	0(0)		宮城県、神奈川県	73	4(3)	0(0)	2(2)		東京都
34	3(0)	0(0)	1(0)	0(0)	秋田市		74	5(3)	0(0)	1(1)		宮城県
35	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)			75	7(1)	0(0)	3(1)	秋田市	宮城県、東京都
36	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)			76	7(4)	0(0)	2(2)		岩手県、埼玉県
37	5(2)	0(0)	0(0)	0(0)			77	7(5)	0(0)	3(3)	奥郡町	東京都、神奈川県
38	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)		宮城県	78	5(2)	0(0)	1(0)		宮城県
39	4(3)	0(0)	1(1)	0(0)		東京都	79	3(0)	0(0)	1(0)	秋田市	
40	3(0)	0(0)	1(1)	0(0)								

凡例 ●踊り手(男性) ○踊り手(女性) □男性 ○女性
 注) *32番までは商店・飲食店を営む世帯である。*()内の数字は踊り手数である。
 *県内の欄の羽後町は、帰省する踊り手の居住地が羽後町内であるが西馬音内地区ではない場合を示す。

(2004年11月の聞き取りおよびアンケート調査より作成)



第5図 年代別の踊り手数(2004年)
 (2004年11月の聞き取りおよびアンケート調査より作成)

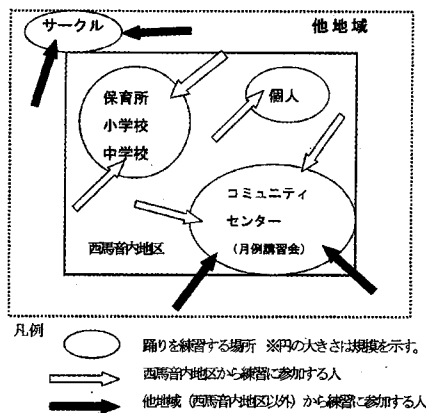
る。聞き取り調査から、盆踊り期間中は多忙なために踊り手として参加することが困難であるということがわかった。一方、一般の世帯では踊り手が多く、たとえば55, 56番のように、家族全員が踊り手である世帯もあった。ある踊り手は、日中の仕事で疲れていても囃子に誘われて、踊りに出かけるという。西馬音内地区に帰省する踊り手は、177人中97人である。秋田県内では、秋田市からの帰省が最も多い。県外では東京都、ついで宮城県からの帰省が目立つ。

ある踊り手は、盆踊りに合わせて長期休暇を取り、帰省するという。

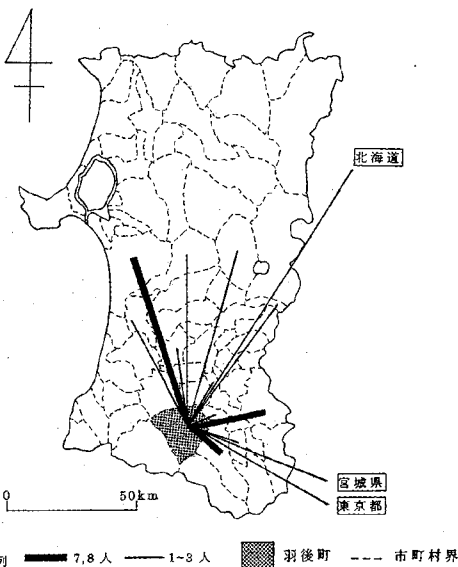
踊り手を年代別に見ると、第5図に示したように、西馬音内地区に居住する踊り手は10代が31人と最も多い。同様に、帰省する踊り手は40代が29人と最も多い。

2. 新たな踊り手

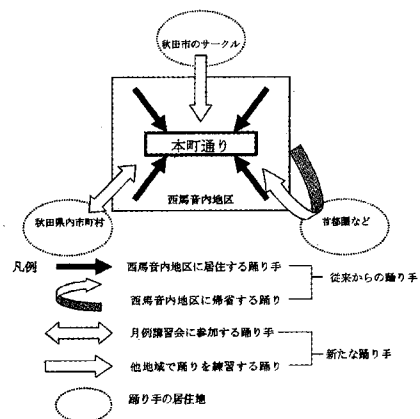
保存会への聞き取り調査から、国の重要無形民俗文化財の指定以降、西馬音内盆踊りの踊り手が増加すると同時に、その居住地が広域化していることが明らかになった(第6図)。たとえば、第7図に示したように、月例講習会への参加者は広域におよび、とりわけ秋田市からの参加者が多い。秋田市からの参加者への聞き取りによれば、秋田市には西馬音内盆踊りサークルがあることがわかった。このサークルは1998年に作られ、2001年以降、30人ほどで毎月1回の練習を行っている。秋田市の例から、第8図に示したように盆踊りを練習する場も、踊り手の居住地と同様に広域化していることが明らかになった。



第6図 盆踊りの練習に関する地域的枠組み (2004年)
(2004年の聞き取りから筆者により作成)



第7図 月例講習会における参加者の居住地 (2004年8月)
(西馬音内盆踊り保存会資料より作成)



第8図 踊り手に関する地域的枠組み (2004年)
(2004年の聞き取りから筆者により作成)

V おわりに

西馬音内盆踊りには、1980年と2004年の比較から、以下のような変容がみられた。

運営組織については、従来からの運営組織である保存会と実行委員会、協賛会に、観光物産協会と北の盆が新たに加わった。これは国の重要無形民俗文化財の指定以降、増加した観光客に対応するためであった。盆踊りを練習する場は、西馬音内地区内に限られていたが、秋田市の例にみられるように広域化していることがわかった。踊り手に関しては、西馬音内地区に居住する踊り手と帰省する踊り手で構成されていたが、新たな踊り手加わった。新たな踊り手は、月例講習会に西馬音内地区外から参加する踊り手と、西馬音内地区外で練習を行う踊り手であり、その居住地は広域におよんでいる。

保存会を中心とした従来からの運営組織に対する聞き取りでは、増加する観光客と新たな踊り手への対応に戸惑っているという回答もあったが、運営組織は西馬音内地区住民と協力し、地域行事としての西馬音内盆踊りの維持・伝承、運営にますます力を注いでいる。

本研究の聞き取り調査とアンケート調査においては、各運営組織の皆様、西馬音内地区住民の皆様から温かいご協力を頂きました。また羽後町役場企画商工課からは西馬音内盆踊りの資料をご提供頂きました。本稿の作成にあたっては、秋田大学教育文化学部の松村公明先生から終始貴重なご指導とご助言を頂きました。

末筆ながら、以上の方々に深く感謝致します。

注

- 1) 西馬音内盆踊りは、1981年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。
- 2) 2004年は雨天であったため観光客数は、盆踊り期間中の3日間で9万5千人にとどまっている。

文 献

平 篤志 (1989)：東京都千代田区神田地区における人口減少に伴うコミュニティの変容。地理学評論，第63巻，701-721。
 藤島美子 (1996)：秋田市における竿燈の運営と町内竿燈の変容。秋大地理，第43号，39-44。